

4. 自主防災組織としての確実な連絡手段と連絡網

幸手東武団地自主防災組織として緊急時に区長または災害担当役員から防災班長に緊急時の連絡を行います。班内の連絡網については各班での連絡網の整備が必要になります。そこで下記（①～④）のような手順で各班での緊急連絡網の整備をお願いします。各班の連絡網の整備にあたっては、自治会会員の高齢化に対する配慮が必要です。また連絡手段の多様化（電話、訪問、緊急回覧配布の他に LINE やメールなどの方法もある）に対して、各会員が希望する連絡手段を調査し、班内での連絡手段を設定してください。

- ① 班内の緊急連絡網の確認を年度初めに行う。具体的には各班の緊急時連絡先リスト（別紙書式7参照）を作成してください。前年度からの引継いだ場合は各会員に対して内容の更新がないか確認を行ってください。
- ② 緊急連絡の方法については、以下のシミュレーション結果を参照し選定してください。
- ③ 災害ボランティアの支援が必要な場合は支援の内容を明確にし、区長に依頼して調整を行ってください。
- ④ 班員に緊急連絡方法と手段を連絡する。

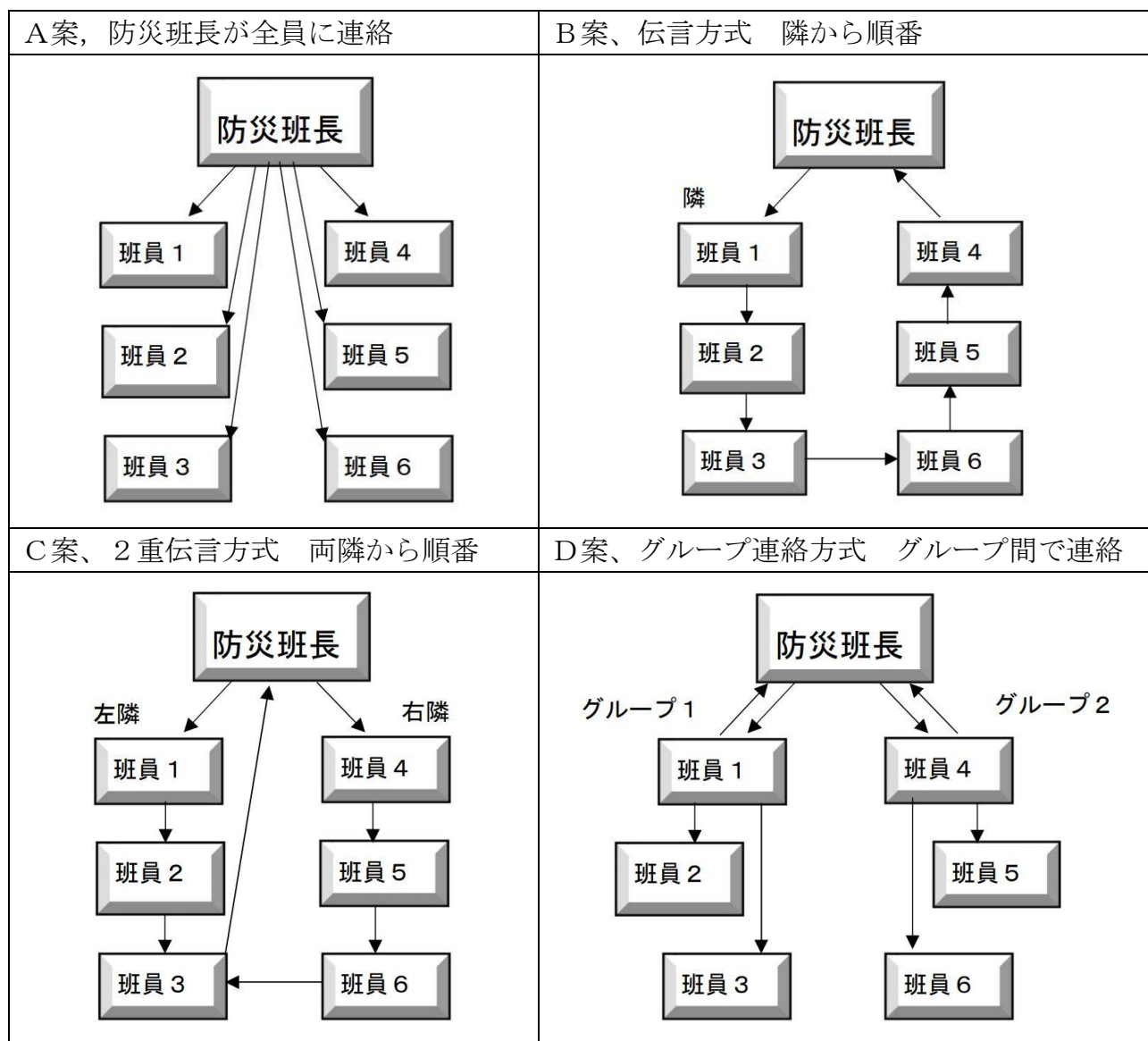
緊急連絡先リストは個人情報を含んでいることから、作成するに当たっては、班員の意向を尊重し、納得できるルールを作る必要があります。また、緊急連絡先リストを作成した後は適正に管理する必要があります。従って下記の要領で作成することとします。

- 1) 災害時の緊急対応などの利用目的を明示し、これに同意の上で個人情報を記入・提供してもらう。また、記載する個人情報の項目は必要最小限にする。
- 2) 作成の必要性や方法、配布先や管理方法などのルールを整理・説明する。
- 3) 全員の同意が得られない場合であっても、同意された方の名簿を作成する。
- 4) 複写や第三者への提供を禁止する。
- 5) 配布対象者を班内と災害ボランティアに限定する。
- 6) 個人情報の流出等を防ぐため緊急連絡先リストの配布先には徹底した管理（コピー禁止、関係者以外への配布禁止）を依頼する。

(1) 連絡網作成指針

災害対策本部を設立し、防災連絡体制表（別途定める）を基に災害対策本部から防災班長及び災害ボランティアに緊急の連絡を行います。そのため、班内の連絡については緊急連絡網の整備を必要とします。各班の緊急連絡網整備の参考とするため、今回WG内のメンバー（30名）で緊急連絡網のシミュレーションを実施しました。その結果に基づき考察を加えました。但し、必ずしも全ての班が同様な連絡方法をとることがベストとは言えないので、各班にあてはめてもらうための指針を下記に示します。

・緊急連絡の方法に関するシミュレーションの実施結果



方法	長 所	短 所
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災班長一人からなので正確に伝わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災班長一人からなので班員が多い場合時間がかかる。 ・ 防災班長の負担が大きい。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回覧板と同じやり方だからわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間がかかる。 ・ 班員が大勢の場合、伝言内容が正確に伝わらない可能性がある。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 双方向なので途切れる可能性が少ない。 ・ Bの1/2の時間で済む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 双方向なのでどこで重なるか判らない。 ・ 防災班長に連絡を返す人が不定になる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間で、正確性にもいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災班長による小グループの作成、及びグループ長の選出に調整が必要。

・シミュレーション実施時の連絡手段に対する意見

手段	長 所	短 所
訪問	・顔を見て連絡内容等直に確認できる。	・夜間、暴風時等に訪問することは危険。
電話	・一般的でわかりやすい。	・不在時の扱い(留守番機能があるとは限らない)
携帯	・自宅にいなくても連絡が取れる。	・個人情報の観点からお互いの番号やアドレスを知ること、教えることに抵抗がある。
メール SNS (ラインなど)	・活字で見ることができる。 ・既読したかもわかる。	・必ずしも携帯やスマホを持っているとは限らない。

- ・ A案の防災班長が各班員に連絡する方法は確実な方法です。班員が多い場合に防災班長の負担が大きくなることが課題です。
- ・ B案は回覧板と同じ方法で分かりやすい方法ですが、時間がかかる点と伝言内容が正確に伝わらない可能性がある点が問題です。
- ・ C案は班長から両隣に連絡していることを班員に周知しておく必要があります。
- ・ D案はA案と同様に確実な方法です。班員が多い班に適しています。ただしグループリーダーを事前に決めておく必要があります。
- ・ 連絡手段としては安全性と確実性から電話や携帯により直接連絡する手段が望ましいと考えます。メール、SNSなどによる連絡は便利な手段ですが、全班員が使用できないと考えられるため、現時点では主な連絡手段を補助する連絡手段として使用することを推奨します。

連絡網作成指針

災害時に重要である情報が早く正確に伝わることを重視し以下の指針とします。

(連絡方法)

推奨1：班員が10人未満の場合：A案を採用する。

推奨2：班員が10人以上の場合：D案を採用する。

各グループが10人未満になるようにグループを分ける。グループリーダーは防災班長が任命する。

B案、C案については防災班長が班内で調整した結果、班員の人数が少ないなど連絡の速さと正確さに問題ないと判断できる場合のみ採用としてください。

(連絡手段)

電話や携帯により直接連絡する手段を標準の連絡手段にしてください。メール、SNSなどによる連絡は補助的な連絡手段として使用してください。